

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	コンサート・プロダクト 2	
科目基礎情報					
開設学科	コンサート・イベント科	コース名	コンサート舞台コース	開設期	後期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	240時間
単位数	8単位			授業形態	実習
教科書/教材	必要に応じてレジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。				
担当教員情報					
担当教員	嶋田円歌		実務経験の有無・職種	有・コンサート制作／アーティストマネージャー	
学習目的					
コンサートやイベントなどの舞台監督及び大道具スタッフを目指す。 舞台監督としては基本的な知識の理解を深め、全セクションのリレーションを良好に保つための方法論を学びその実践を行う。大道具スタッフとしては基本的な知識の理解及び必要な部材の理解や工具の使用法を習得する。この科目を受講する学生は、コンサート・イベント業界の中が協働の場である事を理解し、初めて係る舞台業界で求められる技術、知識の基礎を理解できるようになる。また、どのような人材を求められているか、その為にはどのような知識が必要で、どの様な人間であれば良いかを理解できる様になる。					
到達目標					
この科目ではコンサートやイベントなどに於ける舞台監督及び大道具スタッフとしての基本的な知識や技術を習得を目指し、実際の現場で活躍する企業のスタッフやプロのアーティストの協力の元実践的なコンサート制作を通してコンサートスタッフへの理解を深めることを目標としている。そのうえで、「現場で求められる人材」「実社会で活躍できる人材」とは何かを学生自らが考え、社会に出てから必要となるスキルを身に付けるために自ら動く大切さを理解できるようになることもまた目標としている。					
教育方法等					
授業概要	実際にセットやそれに必要な部材を使って作成します。またその作業を反復練習することにより、理解度とスピードを上げていきますまたそれに必要な知識、技術をゼミも併用して身に付け、グレードにて自己確認します。仕込、リハーサル、本番に向けて、それぞれの更新、変更事項に対する資料の修正、改善などをしていくのは、ほぼ必須となります。またデザインアイデアなどは、様々なライブなどからヒントを得るために自主学習します。				
注意点	遅刻厳禁。実際の現場に於いて限られた時間の中でのタイムテーブル通りの進行は必須ですので、今の内から意識付けをしてください。重量物や長尺物などを扱いますので、安全面には十分気を付けてください。相応しい服装での授業参加を心がけてください。実習やゼミで一度行っただけでは、自分に身に付くはずはないので必ずメモを取る事。メモの取り方の注意は、後日自分で確認した時に理解出来るように心掛けて下さい。授業時数の4分3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	20%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	レポート	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 (口頭・実技)	0%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	60%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	基本的な舞台設備④		バンド編成を元にしたバンドセッティング図の割り出し方法を理解する		
2回	基本的な舞台進行①		タイムスケジュールを作成する為、どのようなセクションがあるかを理解する		
3回	基本的な舞台進行②		各セクション（PA,照明など）に時間配分をする為の、作業内容を理解する		
4回	基本的な舞台進行③		準備段階も含めた制作スケジュールのシミュレーションを行う		
5回	基本的な舞台進行④		Set Listからアーティストの意図を汲み取り、ライブ進行を考える		
6回	VECTORWORKS基本操作③		平面図、正面図、断面図を理解し、VECTORWORKS（図面作成ソフト）を用いて作成する		
7回	仕込練習①		用意された仕込図から必要な数値や部材を読み取り、部材リストの作成を行う		
8回	仕込練習②		ステージ上に立ち位置、セット位置のバミリをし、仕込図通りのセットを完成させる		
9回	修了ライブ実習①		修了ライブのセットを考え図面の作成を行う。タイムテーブル、進行表などの資料作成を行う		
10回	修了ライブ実習②		部材の検討及び発注や購入等を行い、実際にセットを製作する		
11回	修了ライブ実習③		仮組の意味や必要性を理解し、実践する		
12回	修了ライブ実習④		テクニカルリハーサルの意味・内容を理解し、実践する		
13回	修了ライブ実習⑤		全セクションの調整を取りつつ、安全に配慮し本番を進行する		
14回	修了ライブ実習⑥		本番を振り返り、成功体験の共有と反省点の改善策を見つけ、次回につなげる		
15回	グレード試験		図面から必要な情報を読み取り、仕込が出来るようになる		